

平成28年度 宇宙航空安全・ミッション保証シンポジウム プログラム

(テーマ：今こそ安全・ミッション保証改革の時 - 変えるところ、守るところ)

日時：平成28年10月28日(金) 13:00-17:30 (交流会：シンポジウム終了後～19:00)

場所：秋葉原コンベンションホール

予定時間	演 題／講演者
13:00-13:10 (10分)	開会挨拶 JAXA 副理事長 遠藤 守
13:10-13:40 (30分)	JAXA 安全・ミッション保証の取組み及び目指すべき方向性 JAXA 安全・信頼性推進部 安全・信頼性推進グループ グループ長 荒木 秀二 JAXA における安全・信頼性・品質保証の活動状況を報告するとともに、ASTRO-Hの運用異常への対応や取り巻く環境の変化を見据えた、目指すべき方向性を紹介する。
13:40-14:30 (50分)	低ソニックブーム設計概念実証プロジェクト第2フェーズ試験 (D-SEND#2) を成功に導いた第1回飛行異常からの教訓 JAXA 航空技術部門 航空技術実証研究開発ユニット 研究領域上席 (元 D-SEND プロジェクト サブプロジェクト マネージャ) 本田 雅久 JAXA は、超音速飛行時に発生する爆音(ソニックブーム)を低減する技術を実証するためにスウェーデンで気球から試験機を落下、超音速飛行させる実験(D-SEND#2)を行った。第1回の飛行試験(2013年)では、機体の引き起こし時にロール/ヨー連成振動が発生、姿勢制御不能となり、低ソニックブームの計測には至らなかった。帰国後、徹底した原因究明を行い、機体の誘導制御則と空力モデルを改修し、翌2014年に第2回飛行試験に臨んだが、試験期間中に気象条件が整わず、実施を断念。その後、試験機会の自由度を拡大し、2015年3度目のチャレンジで、世界で初めての低ソニックブーム機体の飛行実証に成功した。本講演では、飛行異常の原因究明活動や合計3回の飛行試験の中から得られた教訓について紹介する。
14:30-14:50 (20分)	(休憩)
14:50-15:40 (50分)	X線天文衛星「ASTRO-H」運用異常から明らかとなった S&MA 上の課題および対策について JAXA 宇宙科学研究所 宇宙科学プログラム ディレクタ 久保田 孝 JAXA 安全・信頼性推進部 安全・信頼性推進グループ グループ長 荒木 秀二 X線天文衛星「ASTRO-H」の運用異常の詳細とその背後要因分析について説明し、改善のための取り組みについて紹介する。

15 : 40-16 : 30 (50分)	外部講演 安全・安定輸送を支える東海道新幹線システムの進化の追求 東海旅客鉄道株式会社 執行役員 安全対策部 部長 古橋 智久 東海道新幹線は昭和39年の開業以来52年間、約59億人のお客様にご利用いただき中、乗車中のお客様が死傷に至る列車事故ゼロを継続している。本講演では、安全・安定輸送を支える東海道新幹線システムのコンセプトと特徴、時代の変化に順応しながら大量高速輸送機関として進化を追求し続けてきた様々な取組みについて、ソフト・ハード両面から紹介する。
16 : 30-17 : 20 (50分)	パネルディスカッション テーマ：失敗あるいは周辺の変化に対応し、どう変わっていくべきか？ 衛星開発における失敗やトラブルから何を学び、改善するか、あるいは宇宙開発を取り巻く環境変化に対してS&MAはどのように対応すべきか等について、システム発注者（開発者）／受注者それぞれの立場や役割から意見を交わし、今後のS&MAの方向性についての意識共有を図る。 パネリスト： 日本電気株式会社 宇宙システム事業部 信頼性品質保証部 マネージャー 末本 晴久 三菱電機株式会社 鎌倉製作所 品質保証部 安全・信頼性管理課 主席技師長 森 康 JAXA 宇宙科学研究所 宇宙科学プログラム ディレクタ 久保田 孝 JAXA 宇宙科学研究所 S&MA 総括 小林 亮二 JAXA 第一宇宙技術部門 S&MA 白井 誠 モデレーター： JAXA 安全・信頼性推進部長 泉 達司
17 : 20-17 : 30 (10分)	閉会挨拶 JAXA 信頼性統括 武内 信雄
終了後～ 19 : 00	交流会